

か も が わ し ゅ う へ ん

# 加茂川周辺地区

(新潟県加茂市)

- 計 画 期 間 平成17年度～平成21年度
- 面 積 505 h a
- 交付対象事業費 1,086 百万円
- 市人口 25,390 人

**ポイント** 中心商店街の大型空店舗を活用して商店街の核となる地域交流センターを開設し、食品スーパー、市民交流センター、浴場を有するコミュニティセンターを配置して市民交流拠点を整備し、まちの再生と商店街の活性化を図る。

**地区概要** 当該地区は、加茂川を中心として発展した古くからの密集市街地である。商店街は JR 加茂駅を表玄関に8商店街が軒を連ね長い歴史を持った「町の顔」とも言うべき地域であり、官民一体となって中心市街地の再生を進めている地区である。

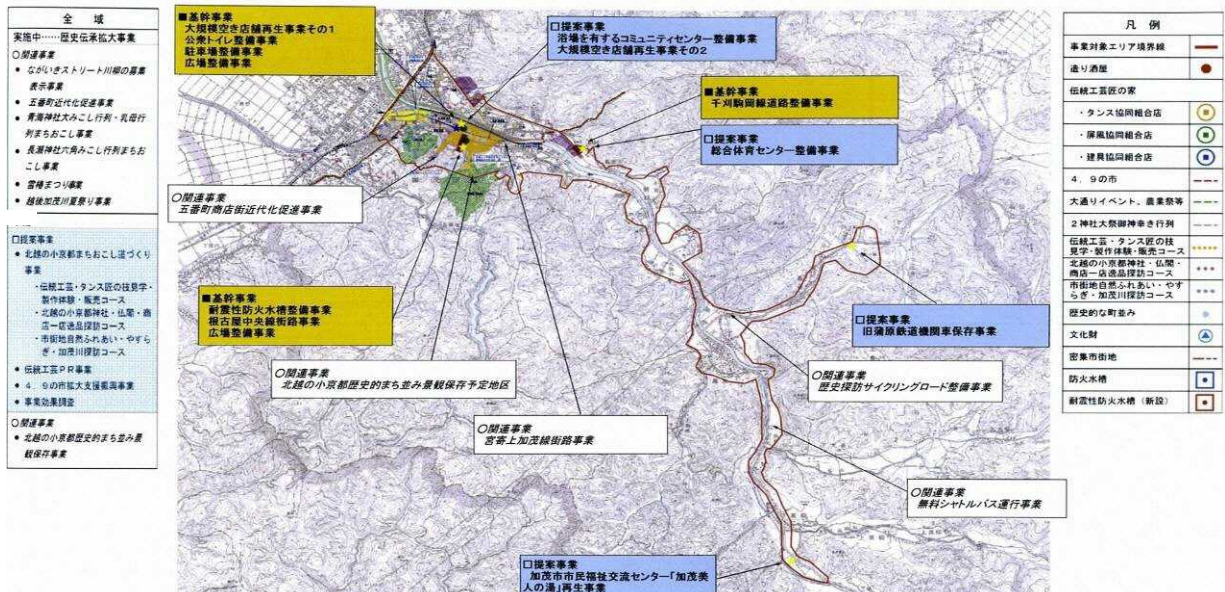
**目 標** 地域交流センターを開設して商店街の賑わいを取り戻し、細い道路網で過疎化の危機にある長い歴史をもった住宅地を救済するとともに、突然火災のため廃業した加茂市中心部の加茂市唯一の銭湯の役割をも果たすコミュニティセンターを開設し、「北越の小京都」にふさわしい伝統工芸を生かしたまちを創造すると共に、加茂市市民福祉交流センターの湯量を復活させ利用客の増大を図り、温泉と商店街が一体となって発展する観光交流文化都市を目指す。

**指 標** ・商店街の活性化（賑わいの再生）と市民生活福祉環境の向上・伝統工芸産業と観光を融合させたまちの核拠点施設の整備・各種市民活動施設の中心市街地への集約・基幹道路等の整備により密集市街地の都市防災機能の向上・総合体育センターの充実・市民福祉交流センター温泉井戸を再生し、温泉と商店街が一体となり発展するまちづくりを目指す。

地域交流センター利用者数	0 人/年 (H17)	→	334,815 人/年 (H22)
五番町商店街販売比率	10% (H17)	→	13.2% (H22)
JR 加茂駅乗降客数(定期以外)	226,000 人/年 (H17)	→	200,383 人/年 (H22)
密集市街地幹線道路	0 h a (H17)	→	15.9 h a (H21)
防火水槽設置数	9 ヶ所 (H17)	→	11 ヶ所 (H21)
総合センター利用者数	46,000 人/年 (H17)	→	60,761 人/年 (H22)
市民福祉交流センター利用者数	120,000 人/年 (H19)	→	137,953 人/年 (H22)

**事業内容** 基幹事業 (751.3 百万円) → 道路(2 路線、12~16m、延長 407m)、広場(2 ヶ所、1,233 m<sup>2</sup>)、駐車場(2 ヶ所、1,335 m<sup>2</sup>)、耐震性防火水槽(40 m<sup>2</sup>×2 基)、地域交流センター 922.05 m<sup>2</sup>(市民交流センター、公衆トイレ)

提案事業 (335.3 百万円) → 大規模空店舗改修 850.1 m<sup>2</sup>(食品スーパー)、コミュニティセンター 286.71 m<sup>2</sup>、北越の小京都まちおこし道づくり事業、伝統工芸 PR 事業、4・9 の市拡大支援振興事業、総合体育センター整備事業 2,839 m<sup>2</sup>、旧蒲原鉄道機関車保存事業、市民福祉交流センター再生事業、事業効果調査、他



## 地区の現況と課題

当地区に位置する市街地は、江戸時代から続く商店街を持ち、長い歴史の中で文化や伝統を育み、商業、業務、居住等の都市機能等の各種の機能を培ってきた「町の顔」とも言うべき地域である。しかしながら、近年は歴史ある市街地の商業機能の低下、及び人口の減少が著しく、行政機能やロードサイドの大型店舗が集中した新市街地と比べ、中心市街地としての位置付けは低下している。こうした中、平成13年に中心商店街の核であった駅前大規模店「メリア」と五番町の「まるよし」が倒産、商店街の魅力が薄れ買い物客の減少とあいまって、来街者の減少を招いており、中心市街地の生活空間としての魅力は益々減少している状況となっている。

一方、五番町商店街の山側に広がる根古屋地区は、長い歴史を持つ閑静な住宅地であるが、道路が狭いという欠陥があり、過疎化の危機にさらされており、広い道路である根古屋中央線を早急に貫通させることが必要不可欠となっていた。また、加茂川周辺地区は、古くからのまち並みを多く残す密集市街地であるため、都市防災機能が不十分な状況にあり、類焼の危険性が高い地区である。



大規模空店舗



完成した地域交流センター

## 提案事業の特徴

### 大規模空店舗を有効活用

商店街の中心にある大型空店舗を利用して核となる拠点を開設し、商店街の再生と活力ある生活空間を創出し伝統産業と観光を融合させた交流施設の整備を通じて中心市街地の復権を目指した。

また、市内唯一の銭湯が類焼し廃業したことから、浴場を有するコミュニティーセンターを同施設に開設した。

### 商店街及び周辺市街地との連携性を高める

伝統産業（筆筥、建具）と観光産業（北越の小京都）を融合させるため、歴史的な風情を残す街並みを活用した周遊コースを設定。歴史・文化・生活等を語り集える施設の整備による交流人口の増大を図るため、利便性、及び回遊性の向上等による魅力ある生活空間を整備した。

## 計画策定プロセス

### 商店街整備事業と大規模空店舗の存在

当市は、魅力的な商店街づくりを目指して、メインストリートの街路拡幅事業と併せて商店街近代化事業が実施され、近代的な個店改造と統一アーケード整備を鋭意進めてきたところである。しかし、商店街のほぼ中央に位置する五番町商店街の集客拠点であった大型店舗が平成13年に倒産、周辺商店への急激な客足の減少という影響を及ぼし、地元住民及び商店主や商工会等から何らかの対策が強く求められていた。

### 伝統産業の振興と観光のまちづくり

商工会では伝統産業の振興と観光を結びつけることにより観光交流人口を増加させ、町全体の活性化と賑わいを取り戻すための様々な方策を提言してきていた。官・民のまちづくりへ向けた意欲と熱意は非常に高い状況にある。

### 密集市街地の防災機能の向上と人口流出

中心市街地は、長い歴史と伝統があいまって発展してきた町で狭隘な道路が多く、近年の車社会や都市防災機能等の面から土地利用が進まず人口の流出が続いている状況にある。密集市街地に幹線道路を整備することによりアクセス道路の交通改善を行い、幹線道路と広場の整備により一体化した防災空間と避難場所を確保することが緊急の課題となっていた。

### 民間の事業意欲、提言を積極的にサポートするまちづくり

本計画によるまちづくりは、産業会、商工会議所等の提言をふまえ、中心商店街と伝統産業と観光を融合させ周辺市街地の都市生活環境の再生と活性化を柱として、ハード、ソフト事業をはじめ様々なまちづくりを計画し展開してきたところである。こうした中、当市の伝統産業の一つである桐筆筥が平成17年6月に中小企業庁から「JAPAN ブランド」として認定を受け、大きく町の産業として飛躍しようとしているところである。本まちづくり交付金事業の採択により中心市街地の大型空店舗跡に地域交流センター、道路、広場、駐車場等を計画して、官・民一体となったまちづくりを推進した。